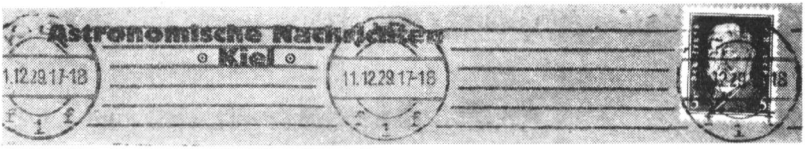

天　界　雜　報

長く見失はれし二つの小遊星再發見さる

第285號 Regina といふ小遊星は1889年に發見されたきり，今日まで見失はれて行方不明であつたが，木星攝動の研究の結果，1911年度に偶然見つけられたMQと呼ぶ星と同一のものであることが近頃確かめられた．(R. I. 399)又，第637號 Gunlöd といふ小遊星は 1908年に發見されたまゝ行方不明になつてゐたが．去る 1930年五月から七月までにわたり，南阿ユニオン天文臺でフランクリンアダムス寫眞機により撮影された一小遊星が全く此の行方不明のGunlöd星であることが軌道計算によつて確證された．(R. I. 413)

行方不明の小遊星

一千有余の既知の小遊星のうちで，發見されたきり，其の後一回も再出現が認められず，從つて行方不明のものは下表の通り（但し，1921以後のものを省く）

155	1875	493	1915	632	1907	831	1916	912	1919
220	1881	496	1902	647	1907	835	1916	913	1919
309	1891	515	1903	650	1907	841	1916	919	1918
315	1891	525	1904	668	1908	843	1916	936	1920
330	1892	531	1904	681	1909	855	1916	938	1920
392	1894	553	1904	682	1909	864	1917	939	1920
400	1895	561	1905	710	1911	869	1917	941	1920
452	1899	587	1906	719	1911	870	1917	942	1920
457	1900	591	1906	724	1911	871	1917	948	1921
459	1900	603	1906	728	1912	875	1917	963	1921
463	1900	605	1906	750	1913	878	1916	969	1921
464	1901	610	1906	810	1915	879	1917	970	1921
473	1901	612	1906	821	1916	881	1917	980	1921

小遊星「花山第四號」

中村要氏が去る1930年8月17日に發見した「花山第四號」小遊星（始めは第441號 Batilde 星と思はれてゐた）は，近着の B.Z. 第7號に據ると，獨乙ベルリン中央局で 1930 QS といふ假名が與へられた.（花山ブレテン第180號，第184號參照）

因みに，「花山」と名の附いた小遊星は今まで五つであつて，下の如くである.

花山第1號 = 1930 SR
〃 第2號 = 1930 SB
〃 第3號 = 1930 SS
〃 第4號 = 1930 QS
〃 第5號 = 1931

井ルク氏の星團

ポーランド國クラカウ天文臺のヰルク Wilk 氏は1928年にジャコビニ彗星(1928b)を搜してゐる時に一つ新しい星團を發見した．其の位置は

赤徑 $7^h\ 31.0^m$　　赤緯$-11°44'$（春分點1855.0）

直徑は約2′といふことであつたが，近頃オンドレヨフの天文臺で觀測された所では，たて11′よこ6′の大きさに擴がつてゐる楕圓形の散開星團であつて，星は13級乃至16級のものから成り，口徑21センチの眼視望遠鏡でも立派に見え，フランクリンアダムス寫眞にも明らかに現はれてゐる.

ベテルギウス星附近に一新星團

本年初頭チエク國プラーグ在オンドレヨフOndrejov天文臺で，シユラー Fr. Schüller 氏が，口徑20センチ F.4.4 のクク製寫眞鏡により新しい一星團を發見した．位置はオリオン座星，卽ちベテルギウス星附近で，B.D＋7°1016といふ星の南0°.3に當り，

赤經 $5^h\ 40.7^m$　　赤緯＋7°21′（春分點1855.0）

上記の器械により 5時間半の曝露で，16級乃至18級の微光星團として現はれ，星團の直徑は6′ある．之れはバーナードの第36號暗黑星霧の附近であるが，バーナードは之れをリク天文臺 Publication 第13卷にも，銀河寫眞

帳にも記載してゐない．多分其の時使つた寫眞器が不充分のものであつたのだろう．ルンド天文臺長ルンドマルク博士の說によれば，之れがフランクリン．アダムス寫眞に現はれてゐないのは此の寫眞の光度限界が 15.0^{m} であるためである．又，チルフバリーザ星圖に出てゐないのも，此の星圖が 15.3^{m} までしか含んでゐないためだろうといふ．距離は少なくとも 30000 光年のものらしい．

ハーヴード大學天文臺長シャプレイ氏は，後に此の星團を南阿ブルームフオンタイン出張所「10吋」メトカーフ寫眞機で撮つた寫眞中に見つけ出した．〔I. A. U. Circular 309, 316〕

艫座に一新星團

前記オンドレヨフ天文臺では同じ20センチ寫眞器により，一角獸座星の西南約1.°3 卽ち

赤經 $7^{h}\ 32.^{m}1$ 赤緯 $-10°24'$ (春分點1855.0)

の點に直徑約 3′ の一つの新しい星團を發見した．形は小さいが星數多く，集團性著しい散開星團である．〔I. A. U. Circular 316〕

ルンド天文臺より新發刊

スヰデン國の學都ルンド（北緯55°42′ 東經$0^{h}52^{m}45^{s}$）の天文臺は西曆1668年，Academa Carolina Conciliatrix と呼ぶ王立大學が創立されて間もなく建てられ，最初は「トレミー教授」たるスポーレ Andreas Spole (1630生—1699死)が其の主任となり，其の官舍の四階に望遠鏡を据え付けたが，不幸にして1676年デンマルク國との戰亂に際し，燒けて了つた．第十八世紀初に同市の僧正館（今日「舊圖書館」と呼ばれてゐる）の高塔上に再建せられ，之れが近年まで維持されたが，1867年に現今の天文臺が建設された．此の天文臺はメラー Axel Möller 教授が前後32年間も臺長として重要な研究をなし，學界に重きを置かれたが，其の後，我が「天界」第5卷にも長文を載せたことのあるシャリエ C. V. L. Charlier 教授が之れを統轄し，特に統計天文學の新分野を開いた．シャリエ氏は1900年から Meddelanden fran Lunds Artronomiska Observatorium といふ研究報告雜誌を發刊した．之れは今も續刊されてゐる，

シャリエ氏が1927年に定年退職されて，後にルンドマルク Knut Lundmark氏が臺長となつたが，最近此の天文臺からはLund Observatory Circularと題する小出版物を發刊されることとなり，其の第一，第二號は共に本年1931三月31日附で諸方へ配布された．勿論，之れは速報的のものであつて體裁などはほゞハーヴード天文臺のブレテンに似てゐる．今後の發達を祈る．

第四回國際天文同盟總會

國際天文同盟は，第一回總會を1922年にロマで，第二回總會を1925年ケンブリヂで，第三回總會を1928年にライデンで開いたが，次ぎの第四回は，1932年八月末に米國東部で皆既日食があることを利用し，其の年の九月の上旬に，ハーヴード大學天文臺で開かれることに定まつた由．

ジーンス氏とエデントン氏の著書について

去る2月19日から21日まで小生は BK から「エロスを見送りつゝ」，「宇宙に關する新說」，「天文より神秘宗教へ」と題する講演を放送しましたが，其の後，諸方から此等の事につき參考書の問ひ合はせがあります．「天界」の讀者には此等の書物の事は屢々紹介しましたから，不必要かも知れませんが，念のため，下に掲げます，（山本）

Sir Arther Eddington,

The Nature ef Physical World. (1928)

Sir James H. Jeans,

The Universe Around Us. (1929)

The Mysterious Universe. (1930)

The Cambridge University Press, 發行，London.

上田教授新任

今春歸朝された元本會副會長上田助教授は去る八月八日教授（二等）に任命された．こゝに御披露を兼ねて祝意を表する．